

でどのような動態を示しながら変容しつつあるかの、問題を重点的に追求した。

2. (1) 昭和37年2月、愛知県下を3つのブロックに分け、幼稚園から大学にいたる40校の生徒を通じ、2000世帯について調査した。

(2) 昭和38年2月、県下中学23校、1150世帯について、同様のアンケートを行なったが、これも近く統計処理が完了するので、両者比較の上、その動態特性について、検討の予定である。

3. 1つの調査から得た主内容はつぎの通りである。

a) 居住特性(都市と地方の地域差)の影響, b) 職業特性の影響, c) 購入品種の傾向, d) 購入地点と方法, e) 購入品の長短, f) 既製服への要望, g) その他。

#### B-14 衣生活における既製服の動態に関する研究 —愛知県下昭和年度—(第1報)

一宮女子短大 山本かなる

1. 産業のめざましい発展につれて、日本における衣生活のパターンは急速に塗り換えられつつある。特に化繊の進出と既製服生産消費の両面において、これが著しいのは衆知の通りである。しかし、その一般消費の実態は必ずしも明確に、組織的に把握されているとはいえない。私は地元の県下において、それがどのように受容されつつあるかの実態をとらえ、将来における、被服教育上の参考にしたいと考える。中でも既製服が衣服消費の中